

e-Portfolio の導入と課題

学びの PDCA サイクルの実現へむけて

大阪府 清教学園高等学校 北辻 研人 田邊 則彦

「生徒の主体的な学びを支援するツール」、「教員の学習者中心の教育観を具現化する授業のツール」として e-Portfolio を導入した。システムの機能概要と実証検証結果をもとに、その有効性について示す。学習の成果物の蓄積だけではなく、相互評価を含めた多様な評価や情報共有、教材配信などの機能を持ち、学校での授業だけでなく家庭での効果的な学習を促し、学習にかかわるステークホルダーへの説明責任を支援し、初等・中等教育の質向上・質保障を狙うシステムの導入と課題について報告する。

1. はじめに

近年、教育の質向上・質保証の必要性が叫ばれるようになった。それは、生徒にどのような力量をつけさせ、そのためにどのようなカリキュラムを用意し、それらをどのような方法で保証すべきかについての議論であった。しかし、ここへきて教育の質保証をめぐる動きは、先の「インプット」から、生徒の学習成果物である「アウトカム（ラーニングアウトカム）」へと焦点が移りつつあると言っている。

このように、学習成果物に基づく教育の質向上・質保証が重要視される中、その説明責任をいかに果たすかが喫緊の課題となる。その一つの解が「e-Portfolio」である。

今後、e-Portfolio システムは、「学び」と「教え」を支援する教育システムの中核の一つになっていくと考えられる。

2. e-Portfolio とは

e-Portfolio には様々なタイプがある。Web2.0 の技術を用いた Web ベースのシステムで SNS の機能を備えたタイプやデジタルコンテンツの管理を行う CMS タイプ、教材配信・学習履歴や進捗を管理する LMS タイプなどがあり、効率よく効果的に蓄積・活用するためにデータベースを構築する必要がある。

本校では、LMS の機能を兼ね備えたシステムを導入した。評価において、学習のプロセスを通じた継続的な学習履歴データや学習成果物等の蓄積を重視し、これらを用いて学習者の取り組みを評価するものである。

観点別評価への対応も実装し、ルーブリックを用いた評価で「指導と評価の一体化」をめざしている。

学習における e-Portfolio の位置づけについて以下に示す。

表1 学習のフロー

目標設定と評価基準の設定	
学習課題・教材の作成	
評価基準の設定	
学習活動の展開	
評価活動	自己評価
	相互評価
	教員評価
公開（ショーケース）	

学習を行う上で、目標設定を行い、それに沿う形で評価基準の作成と確認を行う。「何をどこまでやらなければいけないのか」、「評価基準」、「達成目標」などを明らかにし、学習に即したルーブリックをつくる。

蓄積された学習プロセスと学習成果物から、評価対象を精選し、評価活動を行う。紙ベースの学習成果物はスキャンしてデジタルデータとして蓄積する必要がある。音声や動画にも対応したシステムの利点を活かし、多様な評価を扱うことができる。

自らの、振り返りだけでなく、生徒同士で相互評価を行うことによって、他者の意見を受け入れ、より多くの気づきを得ることができる。

そして、他の学習者の成果から学び、「よりよい学び」につながる振り返りを実現し、次の課題への取り組みの向上につなげる。

観点別評価の実施にあたっては、ルーブリックの設定を行い、学習者中心の活動となるよう支援を行う必要がある。

公開によって、自身の学習成果物の中から最適な学習成果物のセレクションを行うことで、それまでの自身の学習を振り返るきっかけとし、自己評価につなげることで、学習者の学びを生起することをめざす。

3. e-Portfolio の導入

本校で導入した e-Portfolio には、教材配信や課題提出、相互評価、チャットや日記、成績提示などの機能がある。

Web ベースで PC、タブレット、スマートフォンなど OS やデバイスを問わず利用可能で、生徒や教員だけでなく保護者の閲覧や利用が可能である。情報環境担当教員の管理の負担を大きくしないよう、クラウドでの展開を前提としたシステムとなっている。

一般的な LMS と大きく異なる点は、単なる「課題の出題・提出」といった「蓄積」の機能だけではなく、生徒同士の情報共有や相互評価、教員による多面的な評価や成績の提示ができる点にある。少数のグループだけでなく、多人数での情報共有や相互評価がリアルタイムで可能となり、意見交換などを行い学習活動の振り返りや反省を通して「学びの PDCA サイクル」を回すことができる。

また、Web ベースのシステムであるため、授業の中だけでの使用にとどまらず、適宜授業外でのコメントの書き込みや確認が可能である。

教育 SNS に近い側面を持つが、本システムを通し地域社会や保護者、教員などの学習者を取りまくすべてのステークホルダーに対する説明責任とコミュニティの形成につながることを想定して導入した。

4. 課題

4.1 「校務支援システム」との連携

一般的にこれらは機密性の高い情報を扱うためにネットワーク的に分離された場所においてあるケースが大半である。この e-Portfolio は、Web アプリとして開発され、クラウドで管理されている。現在は成績や評定の前段階になる課題の評価や授業への取り組み方の評価までで利用している。セキュリティを確保し、適切な形で情報を扱い、校務支援システムと連携できるようになることが大きな課題と言える。

4.2 「多様な評価」に対する教員の負担

多様な評価を実施することで、教員に「評価疲れ」が生じることのないよう工夫が求められる。生徒の学びを評価する指標や指導のポイントを明確にし、教員の負担増につながらない仕組みの提供が不可欠と言える。

4.3 インフラの整備

こうしたシステムが広く普及していく前提として、学校種や学校規模に応じたネットワークインフラと情報機器を含めた、学習環境の整備が必須である。

5. おわりに

2014 年 11 月に導入し、準備期間を経て 2015 年 4 月から運用を開始してきた。生徒の学習の成果物を蓄積するだけではなく、授業の前後での教材配信や成果物の提出蓄積から情報共有を行い、

相互評価などの評価を実施し、生徒の学習に貢献してきた。教育 SNS とは、一線を画すものと位置付け e-Portfolio を通し地域や保護者などの「学習を取りまくステークホルダー」とのコミュニティ形成を促進し、新しい時代の教育支援ツールとしての可能性を模索したいと思っている。

参考文献

- (1) 野本竜哉氏による、ICT 機器を活用した学習の動向のレポート (2015 年)
<http://it-education.hatenablog.com/entry/2015/02/26/233307>
- (2) 教育分野における e ポートフォリオとは (2011 年)
<http://draco.u-gakugei.ac.jp/eportfolio/>

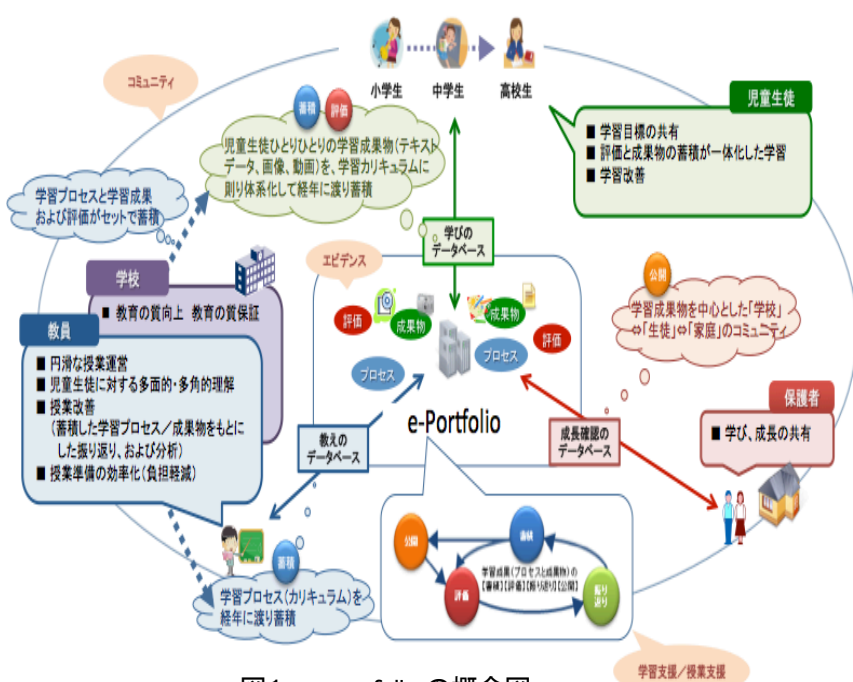


図1 e-portfolio の概念図